

教 育 委 員 会 資 料
令 和 5 年 6 月 29 日
生 涯 学 習 課

令和4年度生涯学習課が所管する施設の指定管理業務事業報告について

令和4年3月8日開催第5回教育委員会において承認を得た「令和4年度の生涯学習課が所管する施設の指定管理業務」について、下記により令和4年度の事業の実施状況について報告する。

記

- 1 八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要 【資料1】・・・P. 2
- 2 榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要 【資料2】・・・P. 7
- 3 教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要 【資料3】・・・P. 12
- 4 シニア学習プラザ指定管理業務にかかる事業報告の概要 【資料4】・・・P. 17
- 5 郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要 【資料5】・・・P. 24

令和 4 年度八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

令和 4 年度利用者数 延 14,821 人

区分	区立中学校 移動教室等	青健事業	一般	キャンプ 施設	アウトドア キッチン	合計
令和 4 年度	6,689 人	140 人	5,217 人	566 人	2,209 人	14,821 人
令和 3 年度	2,356 人	0 人	2,455 人	353 人	612 人	5,776 人
前年度比 (増減数)	283.9% (4,333 人増)	－% (140 人増)	212.5% (2,762 人増)	160.3% (213 人増)	360.9% (1,597 人増)	256.6% (9,045 人増)

総利用者数については、前年度比、9,045 人増（前年度比 256.6%）となった。

令和 4 年度もコロナ禍により、施設利用人数の制限は継続したが、休館することなく運営することができた。移動教室は全校計画どおり実施することができたが、青健キャンプ（青少年健全育成地区委員会活動事業）は 1 地区（仲町）のみの実施となった（計画は 10 地区）。

全体として利用状況は回復基調となり、令和元年度実績（20,023 人）の 7 割程度となった。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

受付業務、食事提供、衛生管理など、運営業務全般において事業計画に基づき適正に運営を行っていた。受付業務では、利用者アンケートにおいて「スタッフの対応の親切さ」の満足度が 94%であり、親切・丁寧な接客に努めていたと評価できる。

食事提供・衛生業務については、食品衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理や外部衛生検査、自主管理に努めている。料理については、朝食にご飯とパンを選択できるようにするなど、お客様の声を踏まえた改善を行っている。

食品に関する事故の防止については、食物アレルギー対応マニュアルの再確認や、職員研修を通じて周知等、徹底した対策を講じており、食品に関する事故は 0 件であった。

新型コロナウイルス感染拡大防止策としては、職員及び利用者の検温の実施、各部屋・設備等のこまめな清掃・消毒、各所（受付・洗面所・トイレ・食堂など）へのアルコール消毒剤の設置、利用者が共同使用する場所（洗面所・浴室ロッカー・下足箱など）は間隔をあけるようにするとともに各所に説明書きを設置してわかりやすく明示するなどの措置を講じ、感染拡大防止を図るとともに利用者に安心して施設を利用してもらえるような取り組みを継続した。

(2) 施設の維持管理

建物維持管理、備品管理、清掃・環境衛生管理・植栽等の維持管理、設備保安業務については、法定点検、日常点検を適切に実施し、いつでも問題なく稼働できるよう努めた。また、スタッフの指導・育成についても、計画的に研修等を行い、関係法令や個人情報の保護取扱規準等の順守など、安全で安定した施設運営に取り組んだ。

施設・設備の修繕工事は、必要性のある修繕か精査し、計画書の範囲内で行われていた。その他、消防設備保守点検や建築設備定期点検等の定期点検だけでなく、日常点検についても丁寧に確認し、異常の早期発見に努めるとともに、設備の保全に必要な措置を積極的に提案するなど、全体を通して、良好な維持管理がされていた。

3 利用者サービスの向上

(1) 利便性の提供

利用者がより快適に過ごせるよう、高齢者や足の不自由な方用にシャワーチェアを導入するなど、アンケートを参考に可能な範囲でサービスの向上に努めている。

運営の様々な部分に指定管理事業者の強みであるアウトドアノウハウを活かした取り組みを行っており、移動教室では希望する学校に「木のスプーン作り」などのアクティビティを実施し好評を得た。また、アウトドアキッチンにおいては、安全な備品の導入や、機材の使用方法的動画作成など、利用者の目線に立った取り組みを実施している。

宿泊以外の取り組みとしては、J R小淵沢駅・富士見駅、中央道高速バス小淵沢の送迎を継続して実施している。

(2) アンケートの実施

利用者アンケートを実施し、利用者からの意見・要望等に対して、対応方法を検討し、改善に取り組んだ。

(3) 施設のPR

ホームページについては、食事内容に関する写真掲載数の増加や、お客様からの問い合わせの多い八ヶ岳荘までの経路の動画公開などの更新を行うとともに、SNSを活用した八ヶ岳荘の情報発信を行った。さらに、企業研修や板橋区外の移動教室などの受け入れを行うなど、八ヶ岳荘のPRや集客に努めている。

4 管理運営経費の収支状況

《収入》

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設使用料	円	円
食事料金	円	円
合 計	円	円

《支出》

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
食材費	円	円
維持管理費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

《差引》

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

(1) 収入

収入については、予算額に対し決算額は、円減の％であった。ただし、施設使用料・食事料金で比較すると、予算額に対する決算額は、円減の％となり、引き続きコロナ禍の影響が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響により中止した青健キャンプや、施設利用予定者のキャンセルに伴う施設使用料等について、区より補償を行うとともに、中止により未履行となった委託料については、指定管理者との協議により、円が区に返還された。なお、令和4年度については、社会的な光熱水費の高騰を受け、円の追加予算を措置している。

(2) 支出

支出については、予算額に対し決算額は、円減の％であった。世界的な原材料価格を含めた物価高騰により、光熱水費が追加予算措置を行なっても、円超過した。また、食事についても、食品メーカー各社の値上げ等による食材調達コストの上昇や、食材の確保など、難しい運営が続いた。そのような状況

においても、適切な経費節減や管理運営に努め、 円の営業利益を確保することができた。

5 自主事業の実施状況

テントサイトの利用促進として、一泊の親子キャンプを9月に実施し、参加者から好評を得た。更に、一般宿泊者を対象に「火起こし体験・森の散策・クラフト体験」などのプログラムを延べ16回実施した。その他、各種のレンタルや、物販は、年間を通じて実施したが、お土産の販売については仕入れの事情により中止となった。

6 所管課の評価等

(1) 評価

- ① 施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報適切な管理を含む通常の受付業務等全般において、年度協定どおり適切に行われている。
- ② 利用者の意見・要望等については対応を検討し改善に努めている。利用者アンケート調査の結果では、施設全体の満足度 94%、食事内容の満足度 86%、職員対応の満足度 94%と良好な評価を得ている。なお、アンケート回答者の 99%が「また利用したいと思う」と回答している。
- ③ 適正な管理運営に必要な各種帳票の記録・整理状況についても、四半期毎の履行確認やモニタリング調査の際に確認している。
- ④ 随所に指定管理事業者の持つアウトドアの知識やノウハウが活かされており、八ヶ岳荘の特徴や魅力を高める施設運営が行われている。

(2) 今後の課題等

① ウィズコロナの施設運営について

新型コロナウイルス感染症の取り扱いが変わることから、これまで設けていた各種の利用制限について、段階的に緩和していく運営が求められる。ただし、急激な緩和は利用者が不安を感じる可能性もあることから、利用者が安心できるウィズコロナの施設運営の方法とその体制づくりに取り組んでいく必要がある。

② 青少年健全育成への寄与

区立中学校の移動教室は令和4年度より再開したが、青健キャンプ1地区を除いて中止となっている。令和5年度はどちらも計画どおり開催する見込みである。安全な青健事業に向けて、所管部署と丁寧な調整を行っていく。

③ 広報活動の充実

令和4年度の後半より、コロナ禍からの回復傾向が顕著になっていることから、コロナ禍により大幅に落ち込んだ利用者数を回復させるだけでなく、更なる増加に向け、SNSの活用を含めた、多様な広報活動の検討及び実施が必要である。

④ サービス向上策

八ヶ岳荘は、お客様アンケートによると7割弱がリピート利用となっているため、飽きさせない工夫が重要となる。その点で、指定管理者の持つアウトドアのノウハウを活用した、野外調理メニューやアクティビティの開発は、自然豊かな八ヶ岳荘の特徴と合致しており、独自性のある魅力となっている。

今後も、このアウトドアを中心とした事業（アクティビティを含む）展開と、すべての従業員が、お客様の目線に立った接遇を心がけ、八ヶ岳荘の魅力を高めるサービスを提供していくことが重要である。

令和 4 年度榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

令和 4 年度利用者数 延 5,753 人 前年比 267.3%
 うち有料利用者数 1,359 人 前年比 246.6%

(延数)	区立小学校 移動教室	青健事業	社会教育団体 (少年団体等)	一 般	合 計
令和 4 年度	4,299 人	46 人	697 人	711 人	5,753 人
令和 3 年度	1,557 人	0 人	217 人	378 人	2,152 人
前年比	276.1%		321.2%	188.1%	267.3%
(増減数)	(2,742 人増)	(46 人増)	(480 人増)	(333 人増)	(3,601 人増)

(小数点 2 位以下繰り上げ)

総利用数については、令和 3 年度と比べ 3,601 人増となり、前年比 267.3%であった。増加の要因として、令和 3 年度 10・11 月に一部学校で実施されていた区立小学校移動教室が、令和 4 年度は全校実施されたことがあげられる。また、令和 3 年度全面中止した青健夏季キャンプについても、一部地区で実施された。しかし、新型コロナウイルスの影響前の令和元年度（11,471 人）と比較すると、利用者の大幅な回復には至っていない。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

施設設備・食事提供・職員対応など、事業計画のとおり適正に管理運営が行われた。施設設備については、通常清掃に加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため消毒作業が行われ、アンケートでも清潔な施設の維持管理が評価された。食事提供においては、利用者が温かい状態で食べられるよう提供時間を工夫する等のサービスが行われた。職員対応については、職員による事前の打ち合わせや当日の利用者への親切な対応が評価され、職員対応満足度アンケートにおいても 99.2%と高い評価が得られた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、館内・食堂等の使用制限と消毒の実施等を行い、密閉空間・密集場所・密接場面を作らない対策を実施した。利用者に対しても、申込・来館の際に館内での手指消毒等の感染対策への協力依頼を行った。

(2) 施設の維持管理

施設の維持管理について、施設の内外ともに設備保守点検や清掃、通常の受付業務等全般において、適切に行われた。故障・不具合が発生した場合は、速やかに対応策を含めた報告書が提出され、緊急性や重要度を考慮しつつ適切に維持管理されていた。

施設内外は日常の見回り、点検時に危険箇所・破損等を調べており、簡易な補修は職員が行っている。不具合については、施設の安全・円滑な管理運営に関わるかを精査し、予算をもとに優先順位をつけて修繕を進めている。令和4年度は、受水槽排水バルブ交換工事や、ストーブ交換工事などの計13件の工事を実施した。また、消防設備保守点検・防火設備保守点検などの法定点検においても異常の発見に努めている。

また、利用者のいない期間中は、施設内の補修・塗装・園庭整備・感染症対策など、景観の改善や整備を進めた。

3 利用者サービスの向上

(1) 利便性向上事業

Wi-Fi 接続サービス・榛名湖バス停までの送迎・施設周辺状況の提供・食堂での飲料提供・キャンプファイヤー用の薪販売等による利便性の向上事業を行っている。

利用受付時には、食物アレルギーに関する事前確認を含め、寒冷的施設環境や周辺状況について細かな説明を行い、利用者が安心・安全な利用ができるよう配慮していた。冬季利用者に対しては、到着前に部屋を暖める、廊下にストーブを設置するなどの対応を行い、寒冷的施設内で快適な時間を過ごせるよう配慮したサービスを行った。

また、施設内にはエレベーターがないため、特に車いす等障がいのある利用者や高齢者に対しては、車を横付けできる入口への案内や館内での移動が行いやすい部屋を優先して割り当てる等、バリアフリー未対応の施設内で利用者が快適に過ごせるよう意識した細やかな対応が行われている。

(2) アンケートの実施

利用者アンケートの調査では、施設満足度 93.7%、食事満足度 94.0%、職員対応満足度 99.2%と非常に良好な評価を得ている。アンケートにて寄せられた利用者の意見・要望には極力応えられるよう改善に努めている。

施設については、通常清掃に加えて新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めた清潔な施設維持等に対して、感謝の声が多く寄せられた。中でも従業員の対応についてはアンケートの評価が高く、「親切で丁寧な対応」と評価されて

いる。食事については、感染対策に加え利用者の年齢に合わせた食事量への対応等が評価された。

4 管理運営経費の収支状況

《収入》

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設利用料	円	円
食事売上	円	円
合 計	円	円

《支出》

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
食材購入費	円	円
その他管理運営経費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

《差引》

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

（1）収入

収入合計については、予算額に対し決算額が 円減の %であった。新型コロナウイルス感染症によるキャンセルや、青健・夏季合宿等の中止による利用者数の減に伴い、施設使用料と食事売上の収入が見込みより減少した。

なお、事業の中止や休館等に伴う施設利用予定者分の施設利用料金については、区より補償を行った。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の実施により履行されなかった青健事業に伴う事業経費および光熱水費への充当経費は、指定管理者と協議の上、合計 円が区に戻入された。

（2）支出

支出合計については、予算額に対し決算額が 円減の %であった。収入と同様、新型コロナウイルス感染症拡大による影響に伴う利用者数の減

少により食材費が減少したほか、管理運営経費についても減少した。

5 自主事業の実施状況

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により1つしかできなかったが、令和4年度については例年の事業計画と同様3つの事業を実施することが出来た。しかし、悪天候と新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルが発生したため、計■名(目標値比■%)の参加となった。参加者からは、食事や体験の楽しさ・利用者への個別対応も含めた接遇が評価され、参加者からのアンケート調査では全ての事業で高い評価を得られた。

6 所管課の評価等

(1) 評価

- ① 施設の維持管理について、施設の内外ともに設備保守点検や清掃・通常の受付業務等全般において、計画書のとおり適切に行われた。工事・修繕についても緊急性や重要度を考慮しつつ迅速に対応していた。通常業務に加え、新型コロナウイルス感染症対策の実施、定期点検等による休館日を利用した施設の景観の改善等、柔軟な運營業務が行われた。
- ② 利用者アンケート調査においては、施設満足度 93.7%、食事満足度 94.0%、職員対応満足度 99.2%と非常に高い評価を得ている。アンケートで寄せられた意見・要望は、施設・ホームページにて公開され、随時対応・改善に努めている。
- ③ 収支状況においても、適正な執行が認められ、全体を通して協定書及び事業計画書のとおり適正な管理運営が行われていた。
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、施設の消毒作業、消毒液の設置等、衛生環境の維持を前提に、利用者受け入れの際に、事前説明を含めた感染予防対策への協力依頼が行われた。

(2) 今後の課題

① 移動教室・青少年健全育成への寄与

令和5年度においては、移動教室や青少年健全育成に関する事業にあたり、行程作成の協力等への徹底を求める。感染症対策を行わない中でも集団行動の中で衛生面に配慮した運用を徹底するため、事前の学校等運営者と綿密な打ち合わせや情報共有を依頼する。

② 施設設備の老朽化への対策

施設が改築後 38 年経過し、老朽化により設備の故障や構造物の損傷が発生している。施設の運営において重要な設備を優先しつつ、寒冷かつ湿度の高い気候において、利用者が安全で快適に過ごせるよう設備環境の改善を図

っていく。なお、本施設は令和 7 年度に廃止することが予定されている。今後は廃止にむけた調整を視野に指定管理者と連携し、建物・設備の点検整備により改修必要箇所を把握し、修繕を進めていく。

令和 4 年度教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

区 分	入館者数	プラネタリウム観覧者数
令和 4 年度	166,336 人	33,208 人（うち有料投影 26,432 人）
令和 3 年度	127,481 人	24,807 人（うち有料投影 21,813 人）
前年比 （増減数）	130.4% （38,855 人増）	133.8% （8,401 人増、うち有料投影 4,619 人増）

令和 4 年度の入館者数は、前年に比べ 38,855 人の増（前年度比 130.4%）となった。プラネタリウムの観覧者数については、前年に比べ 8,401 人の増（前年度比 133.8%）という状況である。

依然として、令和元年度の実績（入館者数 203,126 人、観覧者数 44,455 人）には至っていないが、令和 4 年度については、新型コロナウイルス感染症対策として実施していた入場制限等を段階的に緩和したことで、回復傾向となっている。

2 管理運営業務実施状況

(1) 事業運営

令和 4 年度から新たな指定管理事業者となった。事業運営全般について事業計画に基づき、適切な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、下記①～⑦のとおり実施した。

【主な事業実績】

①校外教授

名称	内容・対象など	実績（参加者数）
移動教室	区立小学校 52 校の 4 年生を対象	3,520 人
移動教室（希望校）	希望校を対象	1 校 144 人
出前理科実験教室	希望校を対象	16 校（25 件）

②科学展示

地下の科学展示室について、適切な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策及び、機器の点検や動作確認を行い、安全な運営に努めた。

※地下の科学展示室については、利用人数の制限を段階的に緩和した。

③科学教室

名称	内容・対象など	実績（参加者数）
科学教室	スライム作製、昆虫食体験、電子工作等	年 46 回実施 延べ 394 人参加

上級科学教室	より高度かつ専門的な内容	年 11 回実施 延べ 54 人参加
自然体験教室	教育科学館近隣での樹木観察	年 1 回実施 19 人参加

④天文（プラネタリウム等）

名称	内容・対象など	実績（参加者数）
一般向け投影	科学館指導員による生解説投影	5,707 人／年間
プラネタリウム番組	アニメ番組や学習番組投影 希望校を対象	18,262 人／年間
特別投影	天文現象や季節に合わせた投影希望校を対象	1,051 人／年間
学習投影	移動教室での投影	3,706 人／年間
幼児向け投影	幼児向けの番組投影	1,126 人／年間
その他	星を見る会・臨時投影・プラネタリウムコンサートなど	1,443 人／年間

※プラネタリウムについては、利用人数の制限を段階的に緩和した。

※区制施行 90 周年イベントとして令和 4 年 10 月 1 日・2 日に無料投影を実施した。

⑤パソコン教室

名称	内容・対象など	実績（参加者数）
プログラミング講座	教材「ME SH」を使用した教室	年間 42 回実施 延べ 421 人参加
ロボットプログラミング講座	教材「KOOV」を使用した教室	年間 78 回実施 延べ 816 人参加
ファーストレゴリーグ	9 歳から 16 歳の青少年を対象とした世界最大規模の国際的なロボット競技会	年間 22 回実施 7 名 1 チーム

※ファーストレゴリーグ実績補足：総合順位が 16 位と過去最高の結果を残した。

⑥ イベント

名称	内容・対象など	実績（参加者数）
企画展示	夏季・冬季・春季の 3 期間に企画展を開催	開催期間 78 日 延べ 63,059 人来場
サイエンスフェスタ	科学館指導員による時期ごとのワークショップ	開催期間 81 日 延べ 2,798 人参加
第 10 回いたばし自由研究作品展	区内在住の小中学生を対象に、夏休みの自由研究作品を募集し優秀作品の表彰を行う	122 作品応募

※企画展実績補足

夏の企画展は、区内企業である「株式会社 タニタ」と連携し、「いま健康ですか？体感する体の科学展」を展開した。展示内容は、タニタの創業者、谷田五八士の試行錯誤の歴史をタニタ製品の展示と共に紹介し、タニタの最新健康器具やタニタ体操などの体験機会も設けた。

※第 10 回いたばし自由研究作品展実績補足

最優秀賞及び優秀賞の 3 作品は全国規模のコンテスト、全国児童才能開発コンテスト（公益財団法人才能開発教育研究財団主催）の科学部門に推薦し、2 作品が「財団科学賞」を受賞した。

⑦ その他

- ・区内団体の要望に応じた「出前サイエンスショー」
- ・中央図書館と連携し図書館 1F ボローニャ絵本館前展示ブースで科学館の企画展紹介
- ・エコポリスセンター・熱帯環境植物館・リサイクルプラザ・中央図書館との共催による夏休み連携事業「デジタルスタンプラリー」
- ・「板橋区民まつり」への出店（常盤台地域センターのさくらまつりは雨天中止）

（2）施設の維持管理

建物維持管理、備品管理、清掃・環境衛生管理等の維持管理については、法定点検、日常点検を適切に実施し、いつでも問題なく稼働できるよう努めている。特に多くの方が利用する地下展示については、公開前の点検や動作確認、月 2 回の技術者による点検、修繕など、安全管理に留意した。更に、スタッフの指導・育成についても、計画的に研修等を行い、関係法令や個人情報の保護取扱規準等の順守など、安全で安定した施設運営に取り組んだ。

施設・設備の修繕工事は、必要性のある修繕を精査し、適切に行われていた。その他、各種の保守点検や定期点検だけでなく、日常点検についても丁寧に確認し、異常の早期発見に努めるとともに、設備の保全に必要な措置を積極的に提案するなど、全体を通して、良好な維持管理がされていた。

令和 4 年度については、給水ポンプの故障により臨時休館（令和 4 年 9 月 21 日から 30 日まで）となったが、適切な対応により最小限の休館期間で設備を復旧することができた。

3 利用者サービスの向上

（1）広報

広報いたばし、科学館ニュースといった従来の広報手段に加えて、SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、令和 4 年度より新たに LINE での広報も開始）を活用し、広報活動の幅を広げた。

ホームページについては全面刷新を行うとともに、プログラミング教室、企画展等の各種事業を積極的に実施・PR することで、目標である 26 万アクセスを大幅に上回る約 89 万アクセスの実績となるなど、認知度の向上がうかがえる。

（2）アンケートの実施

プラネタリウム投影と科学事業において利用者アンケートを実施した。プラネタリウムは「大いに満足」「満足」の割合が 97.7%、科学事業は 95.5%となるなど、高い評価を得ている。

4 管理運営経費の収支状況

【収入】

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
プラネタリウム観覧料	円	円
施設貸出使用料	円	円
各種教室参加費等	円	円
コンサート入場料等	円	円
合 計	円	円

【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
維持管理経費	円	円
事業運営費	円	円
修繕・工事費	円	円
冷温水ポンプ1号機取替委託	円	円
自動給水ユニット交換委託	円	円
冷却塔レジオネラ菌除菌薬注	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（営業利益）	円	円

(1) 収入

令和4年度については、社会的な光熱水費の高騰や、緊急の修繕工事に対応するため、円の追加予算を措置し、そのうち余剰となった円を区に返還しているため、委託料の決算額が予算額に対し円減となっている。その他の項目では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため設けていたプラネタリウムの収容人数の制限を段階的に緩和したことや、新たな指定管理事業者が積極的な事業展開を行ったことで、観覧料や各種教室参加費の収入が伸びている。

区に返還分を考慮すると、収入についてほぼ計画どおりの額を確保することができた。

(2) 支出

支出については、予算額に対し決算額は、円減の％であった。世界的な原材料価格を含めた物価高騰の影響はあったが、適切な経費節減や管理運営に努め、営業利益予算額に対し決算額は円増の％となった。

5 自主事業の実施状況

指定管理者の科学教育ノウハウを活かしたワークショップやサイエンスショー、親子プログラミング等の事業実施や、カプセルトイの販売を行った。

6 所管課の評価等

(1) 評価

- ① 施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報の適切な管理を含む通常の管理運営業務全般において、年度協定どおり適切に行われている。
- ② 指定事業の履行状況については、指定管理1年目でありながら、事業者の持つノウハウを活かしたワークショップやプログラミング教室等を実施しており、特に、企画展示については、区内企業と連携するなど、充実した事業展開が行われていると高く評価できる。
- ③ 利用者の意見・要望等については対応を検討し改善に努めている。利用者アンケート調査の結果では、各種講座等の科学事業やプラネタリウムの満足度はいずれも95%を超え、来館者から高く評価されている。

(2) 今後の課題

① 事業内容の更なる充実

現在の指定管理者は、従前と比較し、科学館周辺の地域とのつながりや、事業に区の資源を活用する意識が高い。また、事業についても、STEAM教育や探究学習の要素を積極的に実施しているなど、独自性の高い運営が行われている。

この科学館の有するノウハウは、学校教育にも有益と思われることから、効果的な移動教室や出前理科実験事業のプログラム開発に向け、区立学校との連携を促進していきたい。

② 施設の老朽化への対応

施設の経年劣化により、設備の不具合報告や点検での指摘が増加している。不具合等については都度修繕しているが、既に部分的な修理では解決できず、応急的な対応に留まっている設備もある。また、プラネタリウムについても、代替品の生産が終了しているなど、設備の老朽化は教育科学館の運営に大きな影響を及ぼすリスクとなっている。そのため、計画的な設備改修や、現在の設備を延命させるための保全方法、故障発生時の代替措置の検討など、運営リスクを低下させる準備が求められる。

令和 4 年度シニア学習プラザ指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

	利用者数	稼働率
令和 4 年度	66,190 人	57.8%
令和 3 年度	41,740 人	51.3%
前年比 (増減数)	158.6% (24,450 人増)	+6.5 P

【稼働率内訳】

2022年度 年間稼働率									実働359日
室名	午前	午後	夜間	稼働可能件数	利用件数	稼働率%	総稼働可能件数	総利用件数	総稼働率
教室 1A	149	126	83						
教室 1B	105	103	84						
教室 1 合計	254	229	167	1,357	650	47.9%	2,154	1,447	67.2%
教室 2A	93	140	93						
教室 2B	80	130	82						
教室 2 合計	173	270	175	1,352	618	45.7%	2,154	1,420	65.9%
教室 3	127	150	144	886	421	47.5%	1,077	612	56.8%
ホールA	196	243	157						
ホールB	139	174	176						
ホール合計	335	417	333	1,974	1,085	55.0%	1,974	1,085	55.0%
集会室1	158	212	81	987	451	45.7%	987	451	45.7%
集会室2	117	220	45	987	382	38.7%	987	382	38.7%
計	1,164	1,498	945	7,543	3,607	47.8%	9,333	5,397	57.8%
稼働可能件数・・・カレッジ枠以外の総数(提案事業含む)と、カレッジ枠で使用了提案事業・減免使用 総稼働可能件数・・・カレッジ枠も含む(使用していなくても数える)									

利用者数は 66,190 人で、前年から 24,450 人増加（前年度比 158.6%）となった。

令和 4 年度もコロナ禍により、事業の一部中止、規模縮小など感染拡大防止対策を講じながら運営を行った。前年に比べ、コロナ情勢の回復に伴い、3（2）で示す提案事業の実施回数の増加及び参加人数の増加もあり、稼働率は昨年に比べ 6.5 ポイント増加した。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

令和 4 年度は、指定管理 4 年目である。利用者アンケートでも、「サービス全般的な満足度」について、「とても満足」「満足」と回答した割合は 74.5%であった。また、当該指定管理者が力を入れている清掃面では、83%の利用者が満足していることから、清潔かつ安定した施設管理が行われている。

(2) 施設の維持管理

施設・設備の保守点検業務については、再委託業務を含め年度協定、仕様書及び事業計

画書のとおり適切に実施した。また、修繕工事については、「駐車場車室番号再塗装工事（ 円）」、「駐車場リフター交換工事（基礎工事含む）（ 円）」「ホール・教室レースカーテン交換工事（ 円）など、計8件（ 円）を実施した。

3 事業実施状況

（1）高齢者大学校業務支援

＜グリーンカレッジコース定員・講座数一覧＞

教科（コース）	定員		講座数	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
教養課程	160人（※）	160人（※）	18回	18回
専門課程 健康福祉	80人	80人	18回	20回
専門課程 文化文学	80人	80人	18回	20回
専門課程 社会生活	80人	80人	18回	20回
大学院 健康福祉	30人	25人	13回	13回
大学院 文化文学	30人	25人	13回	13回
大学院 社会生活	30人	25人	13回	13回

（※）午前・午後各80名ずつ計160人

＜グリーンカレッジ参加者数実績＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
令和4年度	305人	1,064人	1,253人	1,116人	224人	941人
令和3年度	103人	0人	277人	1,379人	748人	1,191人
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和4年度	833人	798人	938人	675人	892人	194人
令和3年度	908人	698人	1,033人	1,068人	850人	553人

※令和3年度は緊急事態宣言により4/26～5/11休館 同宣言延長5/31まで 5/12～末日まで夜閉館

【合計】

令和4年度 9,233人（前年比104.8% +425人）

令和3年度 8,808人

高齢者大学校事業の補助業務については、会場設営・撤収、受付補助、資料印刷等、滞りなく実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、受付時の消毒・検温に関する丁寧な案内や、部屋・機材の消毒など、安全な事業運営が行われている。

(2) 提案事業

指定管理事業者からの提案により実施する「提案事業」についての前年度との比較は以下のとおりである。

	提案事業実施回数	参加人数
令和4年度	180回	5,992人
令和3年度	131回	1,834人
前年比 (増減数)	137% (49回増)	327% (4,158人増)

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、13事業78回分の事業を中止した。水彩画コース、鉛筆画コースの応用編のコースは中止、水墨画コースが回数を減らしての実施となった。とくにコンサート関連が全く開催できなかったことが影響として大きかった。そうした中、年間合計で131回の事業を実施し、1,834人の参加人数となった。オンライン講座については、別途14回実施をした。

一方、令和4年度はコロナの情勢も緩和しつつあり、各種事業を実施することができた。音楽コンサートにおいては、4回実施をし、391人が参加した。また、13周年記念行事（ホール発表会・作品展）においては5回実施し2,820人が参加した。発表会については、実施を見合わせ、ステージ上の様子を動画で撮影したものをSNSやホームページで公開することとした。令和4年度の提案事業の一覧については次ページのとおりである。

令和4年度 提案事業実施一覧表							
事業名	実施計画	予定 回数	実施結果	実施 回数	参加 人数	SNS	SNS数
GCH地域交流コンサート	6月:ハーブデュオコンサート	4	6月:ハーブデュオ(参加 62名)	4	391	コンサートの様子を動画配信 (6月以降SNSを開始したためハーブコ ンサートを除く)	3
	9月:ジャズコンサート		9月:ジャズ(参加 113名)				
	11月:マリンバコンサート		11月:マリンバ(参加 96名)				
	2月:揚琴&二胡コンサート		2月:揚琴&二胡(参加 120名)				
グリーンカレッジ受講者プレゼンツ事業・夏休みグリーンカレッジ塾	8月:夏休みカレッジこども塾(7講座x2回)	14	8月:夏休みカレッジこども塾 (6講座x2+1講座x4回)	16	111		
GCH 周年記念行事	7月:アニバーサリー発表会	1	7月:発表会	1	637	各サークルの演奏を動画配信	1
	8月:作品展(3日間実施)	3	8月:作品展(3日間)	3	2183	全体とサークル毎の写真をスライドショーで配信	1
英語教室①話せる(様になる)為の英文法基礎を学びます	英文法で基礎講座:10月~2月:10回:午後クラス	10	英文法で基礎講座:10月~2月:10回:午後クラス	10	195	授業風景を配信(写真)	1
英語教室②初心者コース	シニアの為の実用英会話初心者コース:5月~10月:12回:午前クラス	12	6月~10月まで開講。	12	275	授業風景を配信(写真)	1
フラダンス教室初心者コース、 Hula卒業発表会~メレフラ&ポットラックパーティー~	フラ:初心者コース:10月~1月:6回	6	フラ:初心者コース:10月~1月:8 回 発表会はコロナの為中止	8	70	授業風景を配信(写真)	1
ウクレレ教室基礎コース +ウクレレ発表会	ウクレレ基礎コース:4月~9月:12回	12	4月~8月まで実施	12	239	ウクレレ基礎コースの発表会の様子	1
ウクレレ教室ステップアップコース +ウクレレ発表会	ウクレレステップアップコース:10月~2月:10回 卒業発表会2月:1回	10	ウクレレステップアップコース:10月~ 2月:10回卒業発表会2月:1回	10	209	新講座ウクレレステップアップコース の授業風景や最終日の様子を配信	2
大正琴体験教室~全3回~	大正琴体験教室:4月:3回	3	大正琴体験教室:4月:3回	3	33		
ダンス教室	大人が楽しむダンス教室:5月~8月(8回)	8	5月~8月:ディスコクラス8回 ※早い ステップのクラス	8	130		
			5月~8月:ポップスクラス8回 ※スロ ーなステップのクラス	8	73		
韓国語教室~全6回~	韓国語体験教室:4月~5月:3回	3	韓国語体験教室:4月~5月:5回	5	90		
水彩画教室・入門コース	水彩画・入門コース:11月~3月(10回)	10	入門コース:11月~3月(10回)	10	206	授業風景を配信(写真)	1
水彩画教室・レベルアップコース	水彩画・レベルアップコース:6月~3月:10回	10	レベルアップコース:6月~3月(10回)	10	195		
鉛筆画講座・基礎コース	鉛筆画・基礎コース:11月~3月:10回	10	基礎コース:11月~3月(10回)	10	151	授業風景を配信(写真)	1
鉛筆画講座・ステップアップコース	鉛筆画ステップアップコース:4月~3月:12回	12	ステップアップコース:4月~3月(12回)	12	189		
水墨作画教室	水墨作画:4月~3月:12回	12	4月から3月まで開講。	12	183	授業風景を配信(写真)	1
デジカメ講座 初心者・ステップアップ講座	デジカメ講座初心者コース:9月:4回 ステップアップコース:11月:4回	8	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0		
シニアのための「イスヨガ」座学と運動	イスヨガ教室:11月~3月:10回	10	イスヨガ教室:10月~2月:10回	10	151	授業風景を配信(写真)	1
似顔絵教室	似顔絵教室:5月~8月:6回	6	似顔絵教室:5月~8月:8回	8	126		
フラワーアレンジメント~クリスマスボード~	フラワーアレンジメント:11月	2	フラワーアレンジメント:11月	2	18	授業風景を配信(写真)	1
太極拳	太極拳体験教室:11月~12月(4回)	4	初めての盆踊り体験教室:1月~3月:8回 ※太極拳講師の都合(体調不良)により、 令和5年度実施予定の盆踊りを前倒しして 実施	6	137	授業風景を配信(写真)	1
合計		170		180	5992		17

4 利用者サービスの向上

(1) 広報

ホームページのリニューアルをし、発表会、作品展や講座紹介を動画にしたものをアップロードし、SNSを通じて幅広い年代層に訴求するといった経営努力をしている。

(2) アンケートの実施

利用者アンケートについては、通常の施設利用者アンケートと、提案事業の参加者に対するアンケートの二種類を実施している。利用者アンケート結果について、職員・ス

タッフの対応は「とても満足」「満足」の割合が 78.5%、施設のサービス全般の満足度は「とても満足」「満足」の割合が 74.5%となっている。なお、提案事業参加者アンケートについては、97.0%が「満足」と回答している。

施設利用、提案事業ともに、約 8 割の方が評価の高い回答をしており、現状の利用者のニーズに適切に対応できている。

5 管理運営経費の収支状況

【収入】

A

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
施設利用料等収入	円	円
合 計	円	円

B

項 目	予算額	決算額
光熱水費充当経費	円	円

年度内電気料高騰に伴う経費支出額の増額補正分・予実差額は歳出戻入

C 合計 (A+B)

項 目	予算額	決算額
C 合計 (A+B)	円	円

【支出】

D

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
事業運営費	円	円
施設・設備維持管理費	円	円
事務費	円	円
合 計	円	円

【差引】

C-D

項 目	予算額	決算額
差引 (利益)	円	円

(1) 収入

収入については、予算額に対し決算額は円少なかった。これは、一部コロナ禍における利用者数の減少（提案事業含む）の影響を受けてのものである。また、年

度内において、電気料金高騰に伴い光熱水費充当経費として 〇〇〇〇 円を計上した。年度終了後、電気料金精算に伴い、充当経費分 〇〇〇〇 円の歳出戻入を行った。

(2) 支出

人件費は概ね予算どおりの支出となっている。施設・設備維持管理費の予実差については、水道料金が 〇〇〇〇 円の余りが出たこと、及び電気料金充当経費の 〇〇〇〇 円の歳出戻入の発生が大部分を占めている。修繕費は 〇〇〇〇 万円の予算の中、決算額が 〇〇〇〇 円となり 〇〇〇〇 円の予実差が発生している。経営努力により、人件費や光熱水費を予算内におさめている。

6 所管課の評価等

(1) 評価

① 施設管理

施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報の適切な管理を含む通常の受付業務等全般において、年度協定どおり適切に行われている。

② 利用者アンケート

利用者アンケートでは約 8 割の方が「とても満足」、「満足」という評価をしており、苦情やトラブルも報告されていないことから、利用者ニーズに適切に対応できている。

③ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

新型コロナウイルス感染防止対策については、高齢者大学事業での三密防止対策や、施設・設備の換気や消毒など、利用者に安心してもらえるようハード面・ソフト面ともに、慎重な対策を講じてくれた。

④ 提案事業

提案事業についても、区民の学習機会が喪失することのないよう、オンラインの活用も含めた様々な工夫により、180回（前年差+49回）実施することができた。コロナ情勢の緩和という背景がある中でも、前年に比べて大きく回数を増やした点を評価する。

⑤ 高齢者学習支援

提案事業を契機とした高齢者への活動支援により、新規にサークル3団体を立ち上げることができた。その他、板橋区民美術展への出展をサポートし4名が入賞した。提案事業の中で、スタッフが参加者に対して積極的にコミュニケーションをはかることで信頼関係を築いたことが結果に結び付いている点を評価する。

(2) 今後の課題等

① 高齢者から多世代交流に向けた事業シフト

令和4年度より長寿社会推進課から生涯学習課に所管替えをしたことに伴い、高齢者の生きがい推進施設から社会教育施設となった。それを踏まえ、これまでの高齢者限定の事業から、全世代向けの事業に計画的にシフトしていく。その事業シフトは、単純な参加年齢の拡大だけではなく、多世代の交流を生み出すような企画内容について研究を進め実現することが求められる。

② 全世代を視野に入れた広報活動の推進

各種事業の参加対象が高齢者から様々な世代に広がっていくことから、広報媒体の活用方法について検討する必要がある。広報いたばしや地域の掲示板の活用は引き続き行っていく中で、ホームページやInstagram等の SNS を有効活用し、多世代交流事業の展開を視野に、若年層を含めた全世代向けの広報活動を強化していくことが求められる。

③ 様々なツールを活用した事業運営形式の実現

新しい学びの場共有の様式として、SNS 動画配信ツールを利用した「オンライン講座」「各種事業の発表会の動画共有」をすることで、学びの場の開放が促進する。

「時間の確保が難しい」「施設に行くことが難しい」といった層は、学びの機会損失となっているのが現状である。時間と場所の制約を超えた学びの受皿・インフラを整備することで、「誰ひとり取り残さない学習機会の確保」、及び「学びを通じた感動の共有」をしていく。

令和 4 年度郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

【令和 4 年度利用者数】

(延数)	集会室	練習室	合計
令和 4 年度	2,467 人	8,438 人	10,905 人
令和 3 年度	1,315 人	6,223 人	7,538 人
前年度比 (増減数)	187.6% (1,152 人増)	135.6% (2,215 人増)	144.6% (3,367 人増)

【令和 4 年度稼働率】

単位：(件)

(延数)	午前	午後	夜間	総件数	稼働率
集会室	59	130	50	239	23.0%
練習室	119	210	269	598	57.6%
合 計	178	340	319	837	40.3%

令和 4 年度の総利用者数については、前年度より 3,367 人増（前年度比 144.6%）となった。

令和 4 年度は、引き続きコロナ禍での運営となったが、感染拡大防止対策を講じながら、休館することなく運営を行った。依然、利用自粛の傾向がみられたものの、全体として利用状況は回復傾向にあり、稼働率は 40.3%（前年稼働率 33.9%）となっている。しかし、コロナ禍以前の令和元年度の利用水準（15,143 人）までには回復していない。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

令和 4 年度は、5 年間の指定管理期間の 3 年目であり中間年にあたる。管理業務全般については、基本協定・年度協定通りに実施され、施設貸出、設備の保守・修理、企画・運営協議会等各種会議への出席等、適切に施設の管理運営が行われている。指定管理者本社と現地、教育委員会との間において緊密な連携をとり、適切な施設管理・運営に努めている。

(2) 施設の維持管理

建築物環境維持管理、清掃、植栽・樹木等の維持管理、保安・警備業務につ

いては、仕様書どおり法定点検、日常点検を実施している。また、これら全般については、建築基準法、消防法、フロン排出抑制法等の関係法令や個人情報保護に関する取扱基準等を順守し管理を行っている。

また、令和 4 年度の小破修理・工事については、以下の 7 件を実施し、小破修理・工事費用は [] 円となった。

- ② 「外側フェンス修繕（指定管理者自社修繕）」
- ③ 「1F 空調修繕（ [] 円）」
- ④ 「1F 空調修繕（ [] 円）」
- ⑤ 「1F 空調修繕工事（ [] 円）」
- ⑥ 「B1F 防音ドア修繕（指定管理者自社修繕）」
- ⑦ 「1F 空調修繕工事（ [] 円）」
- ⑧ 「1F 空調点検（ [] 円）」

3 利用者サービスの向上

（1）利便性の向上

利用予約の受付について、三密を回避するため、従来実施していた来館による一斉受付を廃止し、令和 2 年 5 月から郵送受付を実施している。令和 4 年度も引き続き実施しており、予約のために施設へ足を運ぶ必要がなくなったことで利便性が向上したと利用者より好評を得ている。

また、高齢者や障がい者の施設利用にあたり、職員による積極的な声かけや動線確保を行うなどノーマライゼーションに配慮した運営を実施している。

（2）アンケートの実施

利用者アンケートを実施し、利用者の意見・要望に迅速な対応を行っている。令和 4 年度利用者アンケートでは、「館に対する満足度」の項目において、「やや不満」「不満」の回答は 8.8%にとどまり、高評価の割合が 91.2%を占めている。特に、「職員対応」「館内の清掃・衛生面」に関する項目が高く評価されている。

（3）施設のPR

ホームページのほか、インスタグラム、ツイッターのSNSを積極的に活用して、利用状況や自主事業等に関する情報発信を実施しており、令和 4 年度の情報発信件数は 123 件となっている。

4 管理運営経費の収支状況

【収入】

項 目		予算額	決算額
委託料	当初	■ 円	■ 円
	光熱水費充当額	■ 円	■ 円
施設利用料		■ 円	■ 円
補償金		■ 円	■ 円
合 計		■ 円	■ 円

【支出】

項 目		予算額	決算額
人件費		■ 円	■ 円
施設管理費		■ 円	■ 円
光熱水費充当経費		■ 円	■ 円
修繕・工事費		■ 円	■ 円
太鼓修繕費		■ 円	■ 円
備品購入費		■ 円	■ 円
本部経費		■ 円	■ 円
合 計		■ 円	■ 円

【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	■ 円	■ 円

(1) 収入

収入について、予算額に対して決算額が■ 円減の■ %であった。施設利用料の減少については、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴う利用自粛などが要因と考えられる。

なお、新型コロナウイルスを理由とした利用辞退による施設利用料減少分について、区より補償を行った。また、電気・ガス料金の高騰に伴い、不足する光熱水費への充当経費について、区より補填を行った。

指定管理委託料のうち、余剰金（水道光熱充当額、太鼓修繕費）については、指定管理者との協議により、■ 円が区に返還された。

(2) 支出

支出について、予算額に対し決算額が■■■■円減の■■■％であった。
エネルギーコストの高騰や修繕・工事経費の増加があったものの、事務経費の精査など指定管理者の企業努力により予算額内に収めることができた。

5 自主事業の実施状況

【令和4年度自主事業】

	開催日	時 間	内 容	参加費	参加人数	満足度
1	4 月 16 日	①13:00～14:00 ②15:00～16:00	まゆ玉でこいの ぼりをつくろう	700 円	17 人	100%
2	5 月 29 日	14:00～15:00	アフタヌーンコ ンサート	1,000 円	23 人	100%
3	6 月 19 日	14:00～16:00	郷土芸能講座(田 遊びの世界)	100 円	8 人	85%
4	7 月 18 日	①13:00～13:30 ②13:30～14:00 ③14:00～14:30	浴衣に似合う 「和」のアクセ サリーをつくろ う	450 円	13 人	85%
5	8 月 11 日	①13:00～14:00 ②15:00～16:00	和紙ちぎり絵	900 円	18 人	100%
6	9 月 24 日	14:00～15:00	郷土芸能講座(田 遊びの世界)	100 円	5 人	67%
7	10 月 29 日	①13:00～14:00 ②14:30～15:30	天然石の万華鏡 をつくろう	450 円	26 人	100%
8	11 月 23 日	14:00～15:00	アフタヌーンコ ンサート vol.2	1,000 円	20 人	100%
9	12 月 3 日	14:00～15:00	小さな音楽会 for Baby & Kids	500 円	12 人	100%
10	12 月 18 日	10:00～11:00	はじめての和太 鼓体験	200 円	9 人	88%
11	2 月 23 日	①13:00～14:00 ②14:30～15:30	まゆ玉でうさぎ のお雛様をつく ろう	700 円	16 人	100%
12	2 月 25 日	14:00～15:00	はじめての和太 鼓体験 vol.2	200 円	10 人	100%
13	3 月 25 日	14:00～15:00	郷土芸能講座(田 遊びの世界)	100 円	6 人	80%

施設の設置目的の範囲内で、指定管理者の自己資金と創意工夫による自主事業を実施している。普段施設を利用しない地域住民が施設へ足を運ぶ機会となり、郷土芸能の周知や利用者層の拡大に寄与している。

令和4年度については、13回の自主事業を実施し、年間参加人数は183人となった。参加者アンケートの「満足度」では、いずれも良好な評価を得ている。

6 所管課の評価等

(1) 評価

- ① 施設の維持管理については、保守点検や清掃、受付業務等、全体を通して年度協定どおりの管理運営が行われており、収支状況においても適正な執行が行われている。
- ② 利用者アンケートでは、施設全体の満足度について、91.2%の評価を受けている。特に「職員対応」「館内の清掃・衛生面」の項目において、指定管理者の丁寧な対応が高い評価を受けている。
- ③ 自主事業について、指定管理者のノウハウや創意工夫による多彩な事業を実施しており、参加者アンケートではいずれも高い満足度評価を受けている。初めて施設を利用する参加者も多く、施設や郷土芸能の認知度向上に寄与しているものと評価できる。
- ④ 新型コロナウイルス感染症防止対策については、換気・消毒の徹底や、利用者へ三密防止の呼びかけを行っており、安心・安全に施設利用ができるよう慎重な対策を講じている。

(2) 今後の課題

① 施設の老朽化への対応

施設設置から35年が経過しており、老朽化による設備の故障が避けられない課題である。特に1階空調設備において不具合が続いており、令和4年度においても修繕対応を行ってきたところである。利用者アンケートにおいても、空調設備の改善を求める意見が多く寄せられている。令和5年度に空調設備の更新を予定しているため、引き続き指定管理者と連携して、利用者が安心・安全して快適に利用できる施設環境を管理・整備していく。

② 情報発信力の強化

現在、指定管理者による自主事業やSNSによる情報発信に積極的に取り組んでいるが、これらに加えて、無形民俗文化財の公開練習や体験講座の展開など、郷土芸能の周知に向けた新たな取り組みが課題となっている。

また、新型コロナウイルス感染症による制限は緩和傾向にあるが、利用者数はコロナ禍以前の水準まで回復しておらず、利用者数の回復、また郷土芸能伝承館の認知度向上のため、広報活動の拡充に取り組んでいく。

③ 赤塚・徳丸地域の文化財資源との連携

施設の設置目的である「区民の文化の向上」の達成において、区内の文化資源との連携が重要な課題である。赤塚・徳丸地域には、旧粕谷家住宅、郷土資料館、区立美術館と多くの文化施設が点在しており、中でも旧粕谷家住宅は郷土芸能伝承館のごく近隣に立地しているため、指定管理者のノウハウを活用しながら、徳丸地域の文化活動の拠点として二つの資源の連携を図る取り組みを行っていく。

